

台風災害への対策と安全確保

(日本政府・気象庁)

災害発生時

通過中は外へ出ない。

台風の際は、建物内で通り過ぎるのを待つのが基本です。通過しているときは外へ出ないようにし、河川や用水路の見回りは危険ですのでやめましょう。

エレベータを使わない。

地下にある電気室や機械室などが浸水するとエレベータが停止する可能性があるため、エレベータの使用は控えましょう。

到達6時間前～到達直前

浸水の被害を想定する。

高潮、増水の恐れがある地区では気象情報や行政からの情報に特に注意を払い、すぐ避難できるように準備しておきましょう。

地下にいる場合は注意する。

地下鉄や地下街、地下駐車場などは浸水の恐れがあるので注意しましょう。

到達6～12時間前

行政から避難勧告が出た場合は、複数で行動する。

行政から避難勧告が出たら戸締まりをして、近所の人に声をかけ、一緒に徒歩で避難しましょう。運動靴やトレッキングシューズなら、冠水した道路も比較的歩きやすいでしょう。

避難準備情報が出された場合は、速やかに要援護者を避難させる。

行政から避難準備情報が出たら行動能力の低い人々を優先に、自動車等を使って速やかに安全なところへ移送しましょう。高齢者や障害者、乳幼児らを抱えた家族等が対象です。高台などの避難所、親戚の家、福祉施設等を利用してください。

到達12～36時間前

懐中電灯や食料などを用意する。

台風通過時は、断水や停電となる可能性があります。懐中電灯や情報を収集するためのラジオ、買い物に行けないことも考えて数日分の飲料水や食料を用意しておくといいでしょう。

家財道具を高い場所へ移す。

水に濡れると高価な家財道具も台なしです。浸水被害に遭うと困るものは上の階など高い場所へ移しましょう。できれば浸水被害に対応する損害保険（火災保険の特約等）にも加入しておくとい良いでしょう。

到達36～48時間前

低地に住んでいる場合は、土のうなどを用意する。

低地や川沿いの住居には、浸水をせき止めたり浸水の時間を遅らせたりすることができる土のうの活用も有効です。土のうがあるかどうか、お住まいの都道府県や市町村に問い合わせ

てみましょう。土のうがないときは、代替手段として、ゴミ袋に水を入れて水のうをつくり
コンクリートブロックで固定する方法や、水の入ったペットボトルをダンボールに詰め、簡
易の堤防にするといった方法もあります。

事前に排水設備の点検・掃除をしておく。

排水溝の詰まりが原因で道路や庭などに雨水が溜まると、地下室や地下駐車場などが被害を
受けます。また、ベランダの排水溝や雨どいが落ち葉やゴミなどで詰まっていると、2階以
上への浸水や天井裏への浸水などが発生することがあります。雨水の排水設備関係の点検・
掃除を心がけましょう。

屋根瓦やトタンを補強する。

風で屋根瓦が飛ばば、けがでは済まされない事故になることもあり得ます。また、雨漏りの
心配がないか、外壁のひび割れはないかなども確認しておきましょう。さらに、テレビのア
ンテナや倒れる可能性のある塀、自転車や鉢植えのように飛ばされる恐れのあるものは、ロ
ープで固定したり屋内にしまったりといった対策をとりましょう。